

B004

- T : あ, お久しぶりです。
- I : ご無沙汰しております。〈はい〉
- T : あの, 1年ぶりですけども 〈はい〉, 【I】さん, あの, お仕事のほう, いかがですか?。
お忙しいですか?。
- I : そうですね 〈はい〉, とくに今年が。
毎日忙しい日々が起こっています。
- T : はー 〈うん〉, とくに今年はおっしゃいましたけど, 何か特別な, あれ, ありますか?。
- I : そうですね。
特に, そんなに変わってないような気がするんだけど, 自分自身が 〈はい〉 {笑}, 毎日, 忙しい日々が起こってるんですね。
- T : はー, そうですか。
- I : 息子は, もう, バスケットに入ってる, きっかけに, いろいろ, ちょっとね, 行事が増えまして。
- T : ええ。
- I : うん。
*…
- T : え, 行事ですか?。
- I : いろいろ, 行事。
- T : 行事。
- I : うん。
*…
- T : はー, 例えば, その, はい。
特に, はい, 1つ。
- I : そうですね。
試合, 練習試合とか 〈はー〉, 応援に行ったりとか 〈はい〉。
毎日, 休みじゃないんですけども, 迎えに行ったりとか。
- T : はい。
- I : うん。
- T : お仕事以外に…
- I : そういうとこ, 仕事以外のも忙しい…
- T : そうですか。
- I : ことが増えました。
- T : そうですか。
- I : はい。
- T : で, ちょっと, あの, 話聞いたんですけど, なんか, 今, 中国語教えていらっしゃるという。
- I : は, そうですね 〈はい〉。
ふよー 〈はい〉, にが, 2月ごろ。
あ, 2月ごろか。
日にちも忘れたくらいなんですけれども 〈ええ, ええ, ええ, はい〉, あの, 先生の, 【人名1】先生の,
ね, ご紹介で。
- T : は, はい。
- I : はい。
教えさせていただいてるんですけども 〈はい〉, やっぱり, 自分自身が日本語, そんなに上手じゃないのも 〈いえいえ〉, ほんとに今回, もう, それ, きっかけで, もうちょっと勉強しようかなっていうのも {笑},
ますます, そう思うようになりまして。
- T : そうですか。
- I : うん。
ただ中国語わかるだけでなく 〈うん, はい〉, やっぱり日本語わからないと, 人にものを教えるのは 〈はい〉 難しいだなんていうことを 〈ふーん〉 つくづく感じました。
- T : そうですか。
- I : はい。

B004

- T: あの、どんな講座なのか、まー、あの、学習者どういう人か、ちょっと、教えていただけますか、詳しく。
- I: そうですね〈はい〉。
一応、あの、オリンピックありまして〈はい〉、今年の8月ですね〈はい〉。
その前にみなさん旅行に、あの、行く〈はい〉かた、ような感じなのを〈はい〉、なんていう、こう、会話とか〈はい〉、そういった会話は〈ふーん〉教えるように、あの、頼まれたんですけども〈はい〉。
それは役立って、かな、自分自身もわからないですけど〈はい〉、一生懸命まず探して。
- T: はい。
- I: うん。
教えたつもりなんです。
- T: はい。
- I: はい。
- T: あの、どんな点に、こう、教えるときの難しさっていうか、は[わ]、あるんでしょうか？。
- I: そうですね〈はい〉。
自分は、つ、常に使ってる言葉でも、あの、結局、分からない方には、あの、聞かれるんですね〈はい〉。
これ、どうしてこうですか〈はい、はい、はい〉って聞かれても、ふたん[普段]使ってる言葉だから、深く考えたこともないので〈はい〉、そうですねっていう返事が〈ええ、ええ、ええ〉ありまして〈はい〉。
で、そのあと調べたり〈ふーん〉。
あー、そう、こういうことだったんですね〈はい〉、ていうのを、うん。
- T: なるほど。
- I: そうなんです。
- T: それは、あの、逆に、自然に使ってることを、客観的に見るってことですよね。
- I: そうです。
どうして〈はい〉そ、そうだったんですかとか〈ええ、ええ、ええ〉、いろいろ、自分ではこういう質問しないかなっていう質問も〈ふーん〉されたり〈はいはい〉、あー、そうかー、こういうことも質問されるんだなっていうのを…
- T: ほうほう、なるほどね。
- I: うん。
とても勉強になりました。
- T: えと、逆にそれが、あの、【I】さんの日本語学習に〈うん〉、なにか役立つというようなこともありませんか？。
そういう質問…
- I: そうですね。
だから〈はい〉、うん、最初のときは、自分はそう、同じことを、先生に質問したなっていうことを{笑}、すごく思いました。
- T: なるほどね。
- I: たぶん日本の方は、普段使ってることは、わたしにとって〈はい〉不思議な[わ]〈はい〉いっぱいあったんでしょうね〈えー〉。
なんでそうですか、今も思うところはあるんですけども、たぶん…
- T: ふーん、なるほどねー。
- I: はい。
- T: あの、ま、今回オリンピックの、そのブームでってことですけども〈はい〉、今後もお続けになりたいと思ってるんじゃないですか？。
- I: できれば、なんですね〈はい〉。
どっちも〈ええ〉忘れないように…
- T: ええ、いいですね。
- I: はい、続けたいと思います。
- T: はい。
- I: はい。
- T: どんな中国語、おー、教室をやっていきたくって、なんか、イメージがありますか？。
- I: そうですね〈はい〉。

今回も楽しかったので〈えー〉、やっぱり堅苦しい〈はい〉教え方ではなく〈ええ〉、あの、皆さん楽しく〈んー〉一緒に参加できるようなことをやりたい〈はい〉と思ってます。

T: わたしは語学の教室で、ぜひ、その文化をね〈うん〉、うまく、こう、取り入れていくといいのかなと思うんですけど、そのへんはどうお考えですか？。

I: あ、そうですね。

一応、あの、日本との違いも〈はい〉教えました〈はい〉。

やっぱり、そっちに行って、あの、その、現地のこととか〈はい〉わからないと大変苦労…

T: うん、そうですね。

I: うん、なさると思いますので〈はい〉、いろんな〈はい〉、こう、違い〈はい〉教えました。

T: そうですね。

で、あの、今、えーと、その、きっかけというのはオリンピックということだったんですけども〈はい〉、あの、無事、北京オリンピックも終わりましたが…

I: そうですね。

T: あの、ま、大成功と言われていますけども〈はい〉、あの、ま、オリンピックについてはどのような、あー、感想をお持ちですか？。

I: そうですね〈はい〉。

あたし、かいこうしき〔開会式〕が全部見てないんですけども〈はい〉、ま、遅いなので〈はい〉、いや、素晴らしいですね〈ふーん〉、ほんとに。

自分もそっちで生まれながらも〈はい〉、あー、中国ってこんなに素晴らしい国だなっていう〈はい〉、もう、すごい感じました。

T: そうですね。

I: うん。

前と比べて、ほんとにやっぱり〈はい〉発展してるんですね、うん。

T:ほんとに感動しましたよね。

I: 感動しました、はい。

T: ただ、あの、ちょっと、中には〈うん〉、あの、えー、なんででしょうね、その、見る人を、せ、制限したりとか〈はい〉、そういう、かなり、その、規制が強かったように思うんですけども、それについてはどうお考えですか？。

I: そうですね〈はい〉。

わたしもそれは、もう、その国、やっぱり厳しくしないと〈はい〉、せっかくの出席、ていうか、来てる、にいただいたお客様には迷惑かけるということで〈うん、うん〉厳しくしてもいいかな〈ふーん〉っていう考えのほうなんですけども。

T: はい。

I: うん。

それこそ、それで、無事で、あの、これでかいこうしき〔開会式〕、あのへいこうしき〔閉会式〕も終わること〈ふんふんふん〉できたことで、ま、そのくらいやっても、ま、仕方ないかな〔笑〕って部分です。

T: はー、なるほどね。

I: わたしもそう思って…

T: だからこそ、むじ、無事にできたということですね。

I: だ、そう、うん、やっぱり〈はい〉、その前から〈ええ〉いろんなこと〈はいはい〉ありまして〈ええ〉、だから、それきっかけに〈ふんふん〉厳しくなったんじゃないかと〈ふーん〉思っています。

T: ふーん、なるほどね。

ただ、あの、例えば、あの、えーと、開会式で歌を歌った〈うん〉えー、子どもさんが、えー、やっぱり歌はこの人が上手いけれども〈はい〉、やっぱり、あの、見たとこかわいい人を、この子にしたっていう、ロパク事件ってご存知ですか？。

I: あー、それは知らないです、はい。

T: あ、そうですね。

なんか、あの、実際に歌ってない人、口だけ開けてればいいということで、かわいい〈うん〉、あの、お嬢さんを〈うん〉、えー、まー、映し出したっていうことで。

I: あ、こん…

B004

- T: わたしは、それは行きすぎだと思うんですけど。
- I: こん、今回ですか？。
- T: はい。
- I: じゃ、あたし、その部分見てなかったですね。
- T: あ、そうですか {笑}。
- あたしも、あの、見てはいない…
- I: {笑}、あの、全部見なくて〈ええ〉、見てなくて、はい。
- T: それ、そんなにまで、することはないんじゃないかなと。
- I: ないですね。
- それはないです。
- T: そうですね。
- I: 出す必要ないです。
- T: はい。
- 確かに今回〈うん〉すばらしかったんですが〈うん〉、ちょっと、やっぱりオリンピックも〈うん〉、こう、なんて、ショウ、ショウ。
- I: なん、一度に…
- T: なんとかショウみたいに、ショウ化してるのと…
- I: になってたんですね {笑}。
- T: それから商業ベースっていうふうには思うんですけども〈はい〉、その辺は、いかがお考えですか？。
- I: そうですね。
- ただ、中国の文化っていうか〈はい〉歴史とか〈はい〉たぶん、それ、みなさんに、あの、お見せしたい、あ、かったと思うんですね〈ええ〉。
- それでたぶん、そんなに、大げさって言えば失礼なんですけども〈ええ、ええ、ええ、ええ〉、大きなきまくに、あの、したんじゃないかなと思います。
- T: なるほどね。
- I: しかも、あの、映画の監督、{笑}、してくださったので {笑} 〈はい〉、たぶん、その部分、やっぱり映画の中の、こう、シーンの一つじゃないですけども…
- T: なるほどね。
- I: 少し入れたんじゃないかなという、わたしの考えなんですけれども。
- T: ええ、ええ、ええ。
- ただ、あの、今回だけに、ま、限らず〈うん〉、どんどんどん、こう、なんか、デラックスなっていますよね。
- I: {笑}。
- T: もともと、やっぱりスポーツの祭典だから〈うん〉、原点に戻ってもいいのかななんて、私は思うんですけども、いかがでしょうか？。
- I: あー、そうなんですか〈うん〉。
- たぶん、あの、考えの違いだと〈はい〉思うんですけども〈はい〉、ただ、わたし今回初めて見たので〈はい〉、その、ほかの国のかいこうしき [開会式] とか、へいこうしき [閉会式] は見たことないので {笑} 〈あ、はいはいはい〉、だから比べることができないんですけれども。
- T: あ、なるほどね、はい。
- I: ただすばらしかったっていうことを自分で感じたことで {笑}。
- T: そうですね。
- それはほんとに、もう、そうですね〈{笑}〉。
- 掛け値なしですばらしかったと思います。
- ただ、あの、もう1つオリンピックで〈うん〉、あの、日本なんかも東京オリンピックで、どっと経済発展したんですけども〈はい〉、えー、やっぱり中国もそのように、こ、これをきっかけに〈うん〉伸びていくって思うように思われますか？。
- I: 思いました。
- T: うーん。
- I: うん。

B004

ほんとに、ま、今、帰れること、ていうか、遊びに行くことができないんですけれども〈うん、うん〉、いずれ、いつか見に行きたいなと思ひまして〈うん〉、その、オリンピックやったあとの…

T : うん。

I : はい。

姿というか〈はい〉、あの、みち、街とか。

T : はい。

I : うん。

どのくらい変化していつてるか〈えー〉、見てみたいなのという〈はい〉気持ちです。

T : なるほどね。

ただ、あの、中国の場合は〈うん〉、あの、沿岸部と〈うん〉、要するに発展しているところと〈うん〉、内陸の〈うん〉、この格差がどんどん激しくなって…

I : そうですね〈はい〉。

一応、テレビでは映ってないような〈はい〉話なんですけれども〈はい〉、たぶん、それ、格差があると思います。

T : うん。

I : はい。

それこそ、ま、テレビでも、映ってるところもあるんですけれども〈はい〉、病院に行けた、なかったり、な、お子さんもいらっしゃったりとか、それはやっぱり〈うん〉、たぶん、普通に存在すると思うんですね〈うん〉、医療費が高くて〈はい〉。

日本と比べると、もう、ほんとに、もう、すごい高いです。

T : はい、そうですね。

I : うん。

T : で、あの、富める人はどんどん富んでいつてるという、かたがありますよね。

I : あ、そうです {笑}。

T : じゃ、もし、この格差を〈うん〉直す、え、是正するとしたら、どんな、え、それができる人だとしたら、どんな、あの、方法、方策をお考えになりますか？。

I : そうですね〈はい〉。

難しいと思いますね〈ええ〉。

T : でも、例えばどんなことを対策として…

I : ねー。

商売する方は多いなので〈はい〉、やっぱ中国のかたは、もう、商売するの大好きなので〈はい〉、それこそしばい [失敗] する方もいらっしゃるし〈はい〉、この、あの、上手っていうか、うまくやってる方もいらっしゃる〈はい〉、その格差は、そこで、もう〈ええ〉、出てくると思うんですね〈はい、はい〉。

で、わたし思うには〈はい〉、やっぱ政府、政府っていえば、国の、あの〈はい〉、機関の皆さんが、もうちょっと〈はい〉、ま、だんだん良くなってきたと思うんですけど〈ええ、ええ、ええ、ええ〉、テレビ見ながら、あの〈はい、はい〉、こう、なんていうか、生活できない家族には、ま、毎月いくらとか、そう〈ほー、ほー、ほー〉やってる〈はい〉っていうのは〈ええ〉、テレビは、たまたま、ま、前、見たことがあるんですけれども〈はいはい〉、あ、こういうの、こともやってるなと思っていました〈ほー、ほーほーほー〉。

前よりは良くなったんじゃないかと…

T : あ、良くなって。

I : 思いました。

T : でも、まー、またこれで格差が…

I : またその格差があるんですね。

T : 広がるとすると〈うん〉、どのように、なんか、こう、抜本的なものってありますかしらね。

I : そうですね {笑} 〈うん〉。

ちょっと考えたことないんですけれども。

T : うん、例えば、はい。

I : そういう差〈うん〉なくすためには〈うんうん〉、そうですね〈うん〉、やっぱり仕事ない人、何も話ならないですよ〈はい、はい〉。

企業ももちろん〈うん〉、あの、その、優秀な人間だけではなく〈うん〉、一般の方にも少し、こう、企業、

こう〈うん〉、入れて〈うん〉もらえれば〈うん〉、その人たちの生活もできるように〈うん〉、ね、作ってあげれば〈うん〉いいかなと思うんですけども、それこそ中国だけじゃないんですけども〈はい〉、日本に、ま、フリーターが増えた〈はい〉くらいだから〈はい〉、中国よりは日本のほう〈ふんふん〉今フリーター多いといっても〈ふん〉、仕事探せばちゃんとあるだと思うですよ〈うん、うんうんうん〉。

ほんとに向こうに行けば、探しても仕事ないよ…

T : なるほど。

I : って状態なので〈はい〉。

だからやっぱり仕事〈はい〉つく、その、職場というか、作ってあげるのもやっぱり重要…

T : なるほど。

そうですね。

I : の一つじゃないかなってわたしは思いますが。

T : なるほど。

いいですね〈はい〉。

それをまた、こうね〈うん〉、あの、こまめにやって。

で、今フリーターの話が出たんですけど〈はい〉、日本の場合は、あの、労働力が足りなくなるから〈うん〉外国人をどんどん入れよう、で、わたしも、それは賛成なんですけど〈はい〉、それをする前に、もうちょっと、今の、あの、ま、フリーター、ニートとか〈うんうんうん〉、えー、女性の活用とかね〈はい〉、中高年の活用とか、いろいろあると思うんですけど〈はい〉、そのへんについてはどういうお考えですか？。

I : そうですね〈はい〉。

それこそ、ちゃんと、きちんとした、あの、保証という、あれなんですけども〈はい〉、あの、ただ派遣社員だけじゃなくて〈はい〉、増えたようなんですけども〈はい〉、ちゃんとした保証〈はい〉、あの、してあげれば〈うん〉、きっと良くなるんじゃないかな〈うん〉。

結局フリーター〈うんうん〉っていうことで〈うん〉、あの〈うん〉、そんなに、収入も少ないし〈はい〉、それこそ買い物も行けない〈ええ〉。

で、結局、悪循環という〈はいはい〉形になる〈はい〉んですね。

で、わたしも話、噂ですけども〈はい〉、今の若い子たちが〈はい〉ものをそんなに買わなくて〈うん〉、貯金するの好きだって〈うーん〉聞いたときに、ちょっとびっくりしまして〈うん〉、20歳の子、そうなんですかっていう〈はい〉、ちょっと、はつ、聞いたときはびっくりしたんですけども、結局、将来が不安定ということなんですよね〈ええ〉。

それ聞いたときは、ちょっと、微妙に〈ええ〉、あの、寂しいというか〈はい〉、悲しいというかね〈ええ〉。

こう、日本の〈ええ〉将来に、あの、の、20歳の子どもたちが〈あー〉そういう考えなると…

T : あー、なるほどね。

I : 日本の将来が、どうなるかなっていう【笑】。

T : そうですね。

I : でも、ちょっと心配なんですけど〈はい〉。

でも、ちゃんと〈はい〉、ね、働く場所、それこそ〈うん、うんうん〉どこでもそうなんですけども〈うん〉、見つければいいなと思います。

T : うん、そうですね。

I : だから、自分はやっぱり、こう〈はい〉、恵まれて、そういう、今の会社にいるからこそ〈はい〉こうしてね、みなさんとお話できて、ね、家も建てることできて〈はい〉、子ども2人もね〈えー〉、できること、やっぱり会社にいるから、働いているから、こういうことできたな〈はい〉と思いますね。

T : ま、それは、ほんと【I】さん〈うんうん〉のね、あの、努力と…

I : いやいや。

T : 能力が、あの、した、あれだと思うんですけども、今もちょっと話した、その、移民ね、1000万人とか、いろんなことが出てますけれども…

I : そうです。

T : わたしは、その、それも、ま、そっちの方向もいいんですけども〈うん〉、まずは環境を整えなきゃっていうふう思うんですけど〈はい〉、ご経験等から、どんなふうにお考えですか？。

I : わたしもそう思います〈はい〉。

まず国のなかの〈うん〉、こう、フリーターの皆さんとは言わないですけども〈はい〉、そこでちゃんと解

決してから〈うんうん〉、あの、入れたほうがいいんじゃないかと思います〈うーん〉。

それこそ、介護の方は少ないと〈はい、はい〉、こう、やってるかた、少ないんだけど、それを〈はい〉、こう、なんていう、保証がちゃんとしてあげれば〈はい〉、そのフリーターの皆さんも〈うん〉、少しでも介護のほう〈うんうん〉を入っていったり〈うん〉とか、するかたも増えると思うんですね〈うん〉、確かにたいへんだと思うんですけども。

T : ですね〈うん〉。

で、さっきおっしゃったけど、ほんとに、なんか、貯金が、あの〔笑〕、趣味みたいになって、夢がなくなってきた若者も…

I : そう思いました。

T : あの、増えてますよね〈はい〉。

そこから、まー、あの、例えば、こないだの秋葉原の事件、なんか、ありましたよね？。
覚えてらっしゃいますか？。

I : あー。

あの、そう、びっくりしました。

T : 会社で、もう、なんか、こう、クビになりそうだなみたいな。

I : そうですね。

不安で不安で〈はい、はい〉。
そんな、普通…

T : あの事件についてはどんなふうにお考えですか？。

I : いや、彼自身は甘いな、っていう部分もあるんですけども〈はい、はい〉、それこそ、あの、派遣社員というの、あの、厳しい立場で〈はい〉、いつクビされるか分からない〈うん〉、将来が不安で夢も希望も無い〈はい〉、それこそ友だちもいない〈はい〉、そういう環境のなかでは、やっぱり厳しいかなと思います〈うん〉。

で、最近、結構、結構、あの、なんていうか、精神病院に、かよってる方〈はい〉多いうか〈はい〉わたしも〈ええ〉、それも話聞いたんですけども〈はい、はい〉、やっぱり、その、将来不安だし〈うん〉、あの、誰に頼る、できるかっていうと、やっぱり、こう、先生と〈うん〉話したり、そう、落ち着いてきて〈はい〉、また働くかな〈はい〉という方も〈ええ〉結構いらっしゃるって言うんです。

T : うん。

わたしは、なんか、あの、家庭も問題でしようけれども〈うん〉、が、日本の学校教育がみんな横並びで〈はい〉あんまり、こう、夢もないような〔笑〕偏差値で、こう、切っていくような、そこにまた問題があるかなとも思うんですけども、そのへんはどうお考えですか？。

I : 学校〈ええ〉ですか？。

T : はい。

I : いや、自分の子どもから見ると〈はい〉、前よりは明るくなってきたし〈ええ、ええ〉、それこそ学校だけじゃなくて、やっぱり〈はい〉親の責任もあるかなと思います。

T : 親。

そうですか。

I : 学校だけ、頼っちゃいけないなっていうの、部分もありました。

T : はい。

I : わたし…

T : あ、例えばそういうような、秋葉原のような青年を生み出すのは、家庭の…

I : 家庭もあるし〈はい〉、もちろん学校もあるんです〈はい〉けれども〈はい、はい〉、第一、あの、学校にいる時間長い〈はい〉のですよね〈ええ、ええ〉。

あの、先生の教育の、こう、仕方によって〈うん〉、ま、それこそ、その事件のほかにも〈はい〉先生、刺されたの事件もあったので〈はい〉、それは2年前の〈はい〉ことで、ね、そのあとにも刺されるっていうのも〈はい〉、ちょっと、びっくりしたんですけども〈ええ〉。

そのときなんにも起こらず、でも、あとにはせい〔発生〕することもあるから〈うーん〉、先生も気を付けながら〔笑〕〈うんうん〉、その、教育〈うん〉方針変えないといけないでしょうけど〈はい、はい〉、親も協力しないといけないなと思いました。

T : はい。

親は、特に今の、現代の親は〈{笑}〉どんな点が、一番問題なんでしょうね？。

I： やっぱり自分の子どもが一番かわいいから〈うん〉、もう〈うんうんうん〉、それこそ、こう、間違えたこと、そんなに、こう、ま、すぐ、こう、指摘できない部分もあると思うんですね〈はい〉。

なぜかと、わたし思うと、こう、買い物に行くもそうなんですけど、こう食事するとき〈うん〉、レストランに行ったりするとき〈うんうん〉、もう、子ども、そこのへん遊んでても、もう、迷惑かけてるって思っても、全然注意しない〈うんうん〉親〈ええ〉、増えてまして、あー、ここから始まるのや…

T： ええ。

I： うん。

注意できない親、増えるんだなと思いました。

T： なるほどね。

I： はい。

T： じゃ、そういう、その、母親教育を{笑}〈うん{笑}〉もう少し、こう、したほうがいいと、わたしも思うんですけど…

I： そうですね。

T： もしそういうことに〈うん〉、こう、アドバイスができる立場にいたら、まず、どんな{笑}〈{笑}〉ことをすると、あの、こう、大きく変わっていくでしょうかね。

I： そうですね。

ただ怒るばかりじゃなくて〈うん〉、ま、正しいことは正しい〈はい〉、は[わ]、誉めてあげるし、こう〈はい〉、さっ、ちっちゃいことでもいいから誉めてあげれば〈うん〉、すっごく喜ぶんですね〈ええ〉、自分の経験から言えば。

T： そうですね、はい。

I： すべて否定すれば、もう、この子は、わたしどうせ中途半端、わたし一時的そういうことあったんですけども〈ふんふんふん〉、どうせ勉強もできるし〈うん〉スポーツもできる奴は〈うん〉中途半端だっていう言葉口の中、ずっと常に、あの、話ししてて、子どもは、ちょっと、あの…

T： はい。

I： うん。

暗かったので〈はい〉、あー、こうしちゃいけないなと思って〈うん〉、思っても〈ふんふんふん〉言っちゃいけないことっていうのは〈ええ〉こ、子どもの心、傷付く、なので、で、ちょ、ちょっと、少しお手伝い〈ええ〉でくれれば、ま、す、すぐに助かったとか…

T： なるほどね。

I： こう、ほんとに些細なことでも…

T： そうですよ。

I： もう、ほんとにたす、てつだ〈はい〉、手伝ってくれるようになるんですね。
で…

T： で、それは【I】さんは、ご自分でそれを会得なさったと思うんですけども…

I： いや、そんな…

T： そういうことを〈うん〉、その、よく分かってない、あの、母親たちに〈うん〉教えるにはどんなシステムがあると、母親たちが、こう、成長するんでしょうかね{笑}。

I： そうですね〈ええ〉。

T： な…

I： やっぱり〈はい〉子どもを常に〈はい〉、こう、スポーツに行ったりとか、こう〈うんうん〉、話す、話す機会がないだと〈はいはい〉、もう、時間も作らないと…

T： なるほど。

I： そういうこと食事するときは、あまりそんなに会話ないし〈うん〉、少しでも時間とったほうがいいかなと思う。

今日、何あったとか〈ふんふんふん〉。

最初はたぶん話ししてくれない〈うん〉と思うんですけど〈うんうん〉、長くなると〈うん〉たまに自分のほうから〈はい〉、今日はなにになにありましたとかって〈あー〉教えてくれて〈はい〉。

そゆこそ…

T： なるほど。

B004

- I : 時間つくして…
T : 時間を作ったらいい。
I : あの、はい。
会話させたらどうでしょうかね {笑}。
T : なるほど〈はい〉。
だけど、その、わたしは時間がないっていう親には、どんなふうな。
I : 時間がないですか {笑}。
T : その、はい、ヒントっていうか、コツは、時間を作って話をする？。
I : 時間ない親〈はい〉で、夜中でもいいから〈ほー〉、あの、子どもに一言〈はい〉。
今日は、て、あー、今日はなんかやってくれた〈うんうんうん〉とすると〈うん〉、一言〈うん〉今日は助かりましたよ、ありがとう〈うーん〉とか、あの〈ほー〉、ハートマークでいいから…
T : いいですね。
I : 付けてあげれば〈はいはいはい〉何倍嬉しいかと思うんですけれども。
こう、会話できなかった場合なんですね。
T : なるほど。
I : あの、どうせ親が遅く寝るんだから〈はいはい〉、一言は時間が、が、1分1秒かけるぐらいなん、と思うんですね。
T : ちょっとしたあれですね。
I : ちょっとした。
そうですね〈ふーん〉。
ちょっとしたことでも〈はい〉子どもは変わると思うんですけれども。
T : ええ、なるほどね〈はい〉。
はー、分かりました。
ちょっと、あの、は、話題は変わるんですけど〈はい〉、えー、毎日お忙しいけど〈はい〉、あの、いろんな、こう、料理を〈はい〉自分でお作りになるんですよね。
I : はい。
T : えー、【I】さんの得意料理ってなんですか？。
I : 得意料理って言われると {笑}〈うんうん、ええ〉、特にない〈ええ、ええ〉。
自分自身では特にないけれども…
T : ええ、でも、まー、あの…
I : 結局〈はい〉炒め料理多いなので〈うん、うん〉、で、子ども、好きのが、ハンバーグって言われたので〈うんうんうん〉ちょっとショックだったんですね、中華料理じゃなくて {笑}〈うん {笑}〉。
T : いや、まー、多くの人がそう言いますので {笑}。
I : いや、あ、そうですか {笑}。
なんですけど〈はい〉、ハンバーグとか〈はい〉カレーとか。
T : なるほど。
I : ほんとに一般的の〈はい〉、こう、普通。
カレーは大好き〈はー〉。
で、ママのカレーはおいしい〈あ、あ〉って言われた〈あー〉。
じゃ、カレーが自慢になるかなと {笑} …
T : なるほど。
I : 思ったり〈ふーん〉。
でも、ちょっと、わたしは〈ふん〉ショックですね〈ふーん〉。
つ、カレーじゃなくて〈ふん〉、中華料理が…
T : なるほど。
I : 一番おいしいって言ってほしかった〈はい〉なんですけれども。

T : でも、ま、あの、そうやってね〈うん〉、手をかけて、こう、お作りになって〈はい〉いるのであれですけど、最近やっぱり料理も作らないで〈うん〉、あの、もう、できたものを買ってくる親が増えてますよね〈あー〉。

あたし、そのへんにも、親子の、こう、うまくいかないところに、あれ〈あー〉、あったりするのかなーと思うんですけど、それはどうお考えですか？。

I：そうですね。

やっぱり愛情足りないって思われる〈えー〉かも。

なぜかだと〈はい〉、あたし感じたのは、ほんとに忙しくて、あの、連休中に試合あったんですね〈はい〉。

自分の子ども〈はい〉、また話する〈はい〉んですけど。

で、もう、手抜きしたいって気持ち、すごくあるんですよ〈はい〉。

で、ある日、わたし、もう〈うん〉、忙しくて〈うん〉、子ども【人名2】っていうんですけど〈はい〉、今日はコンビニから、か、おにぎり〈うんうん〉買ってでもいい〈うん〉って聞いて。

だめですって。

なんでって。

ママのおにぎりいいです。

形、ほんとによくないんです、あたしそんなに上手に形作れないので。

それでもやっぱり、親の…

T：いや。

I：おにぎりがいいって言ったとき涙出そうにな***。

T：そこですよ。

おふくろの味ですよ。

I：そうですね。

T：いやー、そうですか。

I：おいしい、おいしいかどうか別としても、親作ってくれたのは〈うん、うんうんうん〉一番いいって言う〈ふーん〉ことでした。

T：わたしもやっぱりね、おふくろの味がある人は〈うん〉、も、感じてる人は、あの、絶対に、こう、ね、よく育つという、あの、し、あの、感じてる人間なんですけど〈はい〉、やっぱり対話とか〈うん〉、そういうことですかね。

I：そうですね。

T：子どもをうまく育てるというのは。

I：はい。

T：はい、そうですか。

いいお話で、本当に〈{笑}〉ありがとうございました {笑} 〈{笑}〉。

I：ほんとにこんなで…

T：あの、ここから、ちょっとロールプレイをしたいんですけども〈はい〉、よろしいですか？。

I：はい。

T：はい。

で、あの、えっと、お仕事は結婚式…

I：そうですね。

T：の、その、お世話というか〈はい〉、あれですね。

で、ちょっと、これ読んでいただけますか？。

I：はい。

T：はい。

声出して読んでください。

I：ある大学の先生が、若者言葉の本を出版しました〈はい〉。

でも、その本は一般の本屋では売られていません〈はい〉。

その先生に電話をして送ってもらいま〈はい〉、ください。

T：はい、はい。

よろしいですか？。

I：すいません。

はい、すいません {笑}。

T：で、ま、この若者言葉ではなくて〈うん〉、えーと、世界の結婚式ていう、それを詳しく書いた、世界の結婚式についての本にしましょう〈はい〉。

仕事上、必要なんですね〈はい〉。

それで、わたしは、あの、えーと、ん、ある大学の〈うん〉、これの専門、結婚式ということについての専門〈はい〉の教授ですね〈はい〉。

電話をして頼んでください、【T】教授に。

よろしいですか？。

はい、出てないので、えーと、本を、えーと、ちょっと、えー、売られてないので貸してくださいという、よろしいですか？。

I : セ、世界、世界…

T : 世界の、えーと…

I : ***…

T : 結婚式にしましょう。

I : 式の本。

T : はい、なんでもいいです。

はい、どうぞ。

I : で、先生に貸してもらいたいということ。

T : はい、はい。

電話をしてください、はい。

リーン。

I : あ、会話ですね。

ごめんなさい〈はい〉、なんか、ついていけなく〈はい〉、いけなくて。

T : はい、どうぞ、はい。

I : あの…

T : はい。

もしもし？。

I : あ、すいません〈はい〉。

わたしからかけるじゃなくて〈はい〉、先生のほうから。

T : いや、先生がかけてる、あの、じゃなくて、ごめんなさい。

【I】さんが、かけてください。

はい、どうぞ、はい。

I : {笑}, すいません。

T : はい、どうぞ。

I : 今さっきのこと、ちょっと、理解できなくてごめんなさいな、先生。

T : はい、どうぞ、はい。

I : あの、わたし、電話して…

T : わたしに頼んでください。

【T】教授に頼んでください。

I : 教授に頼んで本…

T : を貸してもらいたいということで…

I : 貸してもらおう。

あ、分かりました。

T : はい、あの、まったく会ったことのない、えー、とても有名な…

I : の本が〈はい〉ないから〈はい〉、ぜひとも見たいということですから…

T : わたしが書きました、その本は。

I : はい。

あ、そう…

T : よろしいですか？。

I : わかりました。

すいません。

失礼いたしました。

T : どうぞお電話してください。

B004

もしもし、はい。

I : すいません。

T : はい。

I : あの、【I (姓)】と申しますが〈はい〉。

【T】せんせ、ごめんなさい {笑}。

先生の名前…

T : はい、どうぞ。

はいはい、【T】でございますが。

I : いらっしゃいますか？。

T : はい。

あー、あの、私、【T】ですが。

I : あ〈はい〉、すいません〈はい〉。

お忙しいところ、大変、し、失礼いたします〈はい、はい〉。

あの、実はですね、今日、先生に〈ええ〉お願いありまして〈はいはい〉、あの、今、すごい人気出てる〈ええ〉、世界結婚式の本を…

T : あー、はいはい、あー。

I : 貸していただきたくて〈はいはい〉電話させていただきましたが〈あ、はい〉、よろしいですか？。

T : はいはい。

あ、なんか、今、最近、あの、本屋に、今ないって聞いたんですけど、な、あの、あれですか、何かそういう研究でもなさっていらっしゃるんですか？。

I : そうですね〈はい〉。

わたし、ちょうど、あの〈はい〉、そういう、あの、勤め、そういう仕事してまして〈はいはい〉、あの、やっぱり日本のだけじゃなくて〈ええ〉、世界の結婚式を知りたいと思ひまして〈はい〉、何か1つ、花嫁さんと新郎さんに〈はい〉いいアドバイスできれば〈はい〉と思ひまして〈ええ〉、先生の本はぜひ1度、あの、読まさせていただきたいと思ひまして〈はい〉、電話させていただきましたが。

T : あ、そうですか。

えーと、それじゃですね、わたしの大学のほうに、えーと、お手紙くださいますか？。

そしたら、そこに、あの、住所を見て、え、お送りしましょう。

I : あ〈はい〉、はい〈はい〉わかりました。

T : いや、あの、急ぎますか？。

I : できれば、2、3日中でもお願いしたいんですが。

T : わかりました。

じゃ、えー、そういうことでしたら、あの、至急、あの、するようにいたしましょう。

はい、あの…

I : すいません。

T : はい〈はい〉。

ちょっとお待ちくださいね。

I : ありがとうございます。

T : それじゃ、また、はい、お送りします。

はい〈はい〉、どーも。

I : すいません。

失礼いたします。

T : ガッチャン、はい。

I : はー、すごい緊張しました〈{笑}〉。

先生、ごめんなさい、なんか。

T : いえいえ〈{笑}〉、はい。

それで、あの、これで1つ終わりますけれども〈はい〉、もう1つやっていいですか？。

I : はい。

T : えーと、今、あの、【I】さんは〈うん〉、えー、その、その、えー、レポート〈はい〉、世界の結婚式比較というので、書かなければいけません〈はい〉。

B004

ちょっと、これ読んでください〈はい〉。

声出して読んでください。

- I : あなたはアパートの一室で勉強しています。
でも、部屋の前で子どもがうるさく遊んでいます。
子どもに静かにするように言いなさい。

- T : いいですか？。
えっと、ま、勉強ではなくて、いま、あの、この世界の結婚式のレポートを書かなきゃいけないのに〈はい〉、隣のわたしは、2歳か3歳のマリちゃんがうるさい〈{笑}〉。
だから、ちょっと、注意してくださいね。
よく知っている、隣の子どもですね〈はい〉。
ちゃんと、あの、ちょっと、厳しく、注意してくださいね〈はい〉。
おばちゃん。
おばちゃん。
遊んで一緒に。

- I : おばちゃんがいま忙しくてねって〈うん〉。
もうちょっと〈うん〉、もう少し〈うん〉待っててくれます？。
T : えー、でも、だって、一緒に遊んでほしいんだもん。
I : おばちゃんは、どうしても今ね〈うん〉、書かないといけないことあるんですよって。
T : うんうんうんうん、そうなの？。
I : もう少し〈うん〉、飽っこでもいいから、先に食べてくれます {笑} ？。
T : わかったけど、じゃ、あとで一緒に遊んでくれる？。
I : はい、約束だよ。

- T : うん〈はい〉。
わかった。
はい、じゃ、ちょっと、これ終わりますね。
それで…

- I : *** {笑}。
T : あの、えーと、ですね、お子さんの〈はい〉、えーと、下のお子さん〈うん〉は何歳でしたっけ、お嬢さん？。

I : 2歳です。

T : まだ…

I : もうそろそろ3歳なります。

T : 3歳ですか？。

I : はい。

T : で、そのお友だちも遊びにきたりしますか？。

I : あー、来てないですね。

T : あ、来ないですか。

I : はい。

T : じゃ、ぼっちゃんの、えーと、お友だちも遊びにきますか？。

I : あ、来ます。

T : そうですか。

I : はい。

T : じゃ、その子、そのお友だちが〈うん〉、ほんとにね〈うん〉、ちょっと、いたずらして〈うん〉、大事なものを触ってるので〈うん〉、えーと、ちょっと、それは、えーと、駄目だよって、ちょっと、注意してみてくださいね。

I : すいません。

今日、おこりました。

T : あ、そういうこと起こったんですか？。

I : おこったんです {笑}。

T : じゃ、ちょっと、でも、やってみましょう、はい。
ちょっと、なんか、こう、やってますね、はい。

B004

- I : ちょっと、あれ、ある日が、あの〈はい〉、子どもいっぱい〈はい〉連れてきて〈ええ〉、うちのぼう [坊] ちゃんが〈ええ、ええ〉。
- で、下に〈はい〉、その〈はい〉、2歳の子どもがいて〈はい〉寝てたんですね〈はい、はい〉。
- で、うるさくて〈うん、うん〉、とても我慢の限界で〈はいはい〉、注意しました。
- T : はい、じゃ、そう、はい、じゃ、やってみましょうね。
- I : で、自分の子どもを〈はい〉注意した、ぼう [坊] ちゃんに。
- T : あ、じゃ、自分の子ども…
- I : あの、****…
- T : じゃ〈はい〉、ぼうちゃんに言ってください、はい。
- 日本語で言ったんですね、みんなに？。
- I : そう、日本語に。
- T : みんな***にいますからね。
- I : うん。
- T : はい、じゃ、はい、じゃ、わたし、***ね。
- I : 【人名2】。
- T : うん、あ、【人名2】。
- I : もうちょっと静かにしなさいって。
- そうじゃ…
- T : じゃ、ちょっと、ちゃんと、もう、今、もう、あたしが【人名2】ですよ。
- I : は、すい {笑}。
- T : はい、じゃ、やってください。
- なに、お母さん？。
- なんで？
- 僕、悪くないよ。
- I : 【人名2】、ちょっと、ちょっと静かにしなさい {笑} って。
- あの〈うん〉、【人名3】ちゃん寝てるから。
- T : どうして？。
- わたし、ば、僕、うるさい？。
- I : 【人名3】ちゃん寝てる、【人名3】ちゃん寝てるでしょって。
- ちょっとうるさいんですよ。
- 声出しすぎ。
- T : ほんと？。
- I : うん。
- T : でも、それだって、みんなもうるさいじゃん。
- 僕だけ悪くないよ。
- I : これ、【人名2】のうちでしょ。
- T : うん。
- I : 【人名2】が注意しないと、誰、注意するんですか？。
- T : うーん。
- でもしょうがないじゃない。
- I : こ…
- T : みんなうるさいんだもん。
- I : みんなうるさくても…
- T : 僕だけ注意しないでよ。
- I : あとで遊ぶことできないんですよ。
- とりあえず1回外に出て、外で遊びなさいって。
- T : うーん。
- I : 注意しました。
- T : そうですか、はい。
- I :ほんとにちっさいの話なんですけども。

B004

- T : {笑}, そうですか。
- I : あまりうるさくて〈うんうんうん〉1回注意しました。
もう…
- T : そうですか。
- I : うん〈うん〉。
外で遊んでちょうだいって〈はい〉。
【人名3】ちゃん, もう, 起きるまでに〈うん〉, ちょっと, 外で遊んでちょうだいって。
- T : うーん, そうですね, はい。
じゃ, もう, ロールプレイ, もう, これで終わりますね。
- I : 良かったです {笑}。
- T : はい。
でも, 実際あったことだったんですね。
- I : そうなんです {笑}。
- T : あー, でも…
- I : いろいろ, やっぱり〈うん〉おこるんですね, 実際。
- T : いっぱいお友だちが来ていいですね, ほんとに。
- I : もう, ほんとに〈ええ〉友だち, 友だち呼んできて, 実際, わたし呼んでないって, 【人名2】言ってたんですよ〈うんうんうん〉。
そんなに呼んでないって〈ふーん〉。
友だちが友だち連れてきたって。
- T : うわ, すばらしい。
- I : それは1回, 1回だけなんです。
注意してから〈はい〉, そんなにいっぱい {笑}, 連れてきませんです。
- T : そうですか。
- I : はい。
- T : いや, でも…
- I : 3, 4人は自分だっていう感じだけど〈うんうんうんうん〉, あんまりそれに…
- T : でも…
- I : 狭いから, うちの部屋は, もう。
- T : いやいや, でも宝ですよ。
- I : {笑}。
- T : わたしも, お誕生日会やるって言ったら, クラス全員の男の子, 呼んでこられたことがあったんですけど {笑}。
- I : すごい {笑}。
- T : はい。
もう〈ええ〉, やっぱり宝だと思いますね。
- I : そうですか。
- T : お友だちってね。
- I : はい。
- T : はい。
今日はお忙しいところ〈いえいえ〉, どうもありがとうございました。
- I : ありがとうございました。
- T : どうも失礼します。